

450462

第  
門

法政学  
政治学  
法学  
経済学  
社会学  
文学部

法政学  
政治学  
法学  
経済学  
社会学  
文学部

外

政治学

A large rectangular area containing vertical lines and handwritten text in Japanese, likely representing a library classification or index system.

REEL No. 1-0566

0159

情態ヲ探査スルノ必要ヲ認メ昨以四十二年  
 中實者囑托山口岸ヲ廣東廣西湖南湖  
 北山東及長江一帶ニ派遣シ又日時ニ在上  
 海總領事館ヨリハ西奔者三ヲ江蘇安徽浙  
 江ノ三省ニ在漢口總領事館ヨリハ少政真平  
 ヲ江西省ニ吉福興甲ヲ湖小者ニ山田勝  
 外務省  
 治ヲ湖南湖北ノ兩者ニ遠征保雄ヲ湖南省  
 ニ夫々臨時囑托派遣シ在重慶領事館ヨリ  
 ハ三浦由次生ヲ雲南省ニ派遣セリ中偏ハ昂  
 千右衛門ノ實地踏査シタル結果ニシテ山口囑托  
 ニ命ジタル日氏ノ調査ニ基キ又他諸氏ノ  
 報告ヲモ併セテ參照シテ編纂セシメタルナリ  
 此等地方ノ瞭解ハ尤モ交通ノ便未ダナリト  
 ニ加フルニ諸般踏査ノ時日又限リアリシカニ調

450464

查ノ目的ハ凡ソ所素ヨリ秘密ノ事項ナレバ以テ  
獲レ所ノ資料未タ完全ナラス且悉ク正確ナ  
期ニ難キモ庶幾クハ信正ニ於ケル秘密係社ノ  
情状ヲ知ルニ於テ尙多ク考テノ資料ナラズ

昭和四十四年六月

外務省経済局第一課

外務省

清國ニ於テ秘密結社

目次

第一章	緒論	一
第二章	秘密結社小史	四
第三章	秘密結社起因	六
第一節	政治上、起因	六
甲	清朝建國當初、秘密結社	六
乙	盛政ト會匪	六
丙	革命的、秘密結社	七
(一)	滿洲政府、失政	七
丁	軍事上、失政	七
戊	外交上、失政	八
ハ	内政上、失政	八
(二)	革命党最初、檄文	八
(三)	海外ニ在留スル支那人	一〇
四	政治上、失意者	一〇
第二章	經濟上、起因	一一
甲	海外貿易ノ干渉	一一
乙	産業ノ不振	一二
丙	租税ノ請求	一三
丁	交通干渉	一四
戊	秘密結社ノ加盟者	一五
第三章	宗教上、起因	一六
第四節	人種上、起因	一七
第五節	思想上、起因	一九

四

第六節	甲	民風上、起因	二三
	乙	湖南省	二三
	丙	廣東省	二四
	丁	楊子江流域	二六
	一	淮南気候	二六
	二	淮北気候	二六
	三	安徽民風	二六
第四章		秘密結社と農民	二九
第一節	甲	農民一般生活状態	二九
	乙	廣東省	三〇
	丙	廣西省	三一
	丁	湖南省	三一
	下	湖北省	三二
	戊	長江一帯	三二
	己	河南省	三四
第二節		地主と小作人	三五
第三節		官憲と農民	三八
第四節	甲	鐵道と暴動	四〇
	乙	江北地方	四一
	丙	兩湖地方	四一
第五章		秘密結社と革新運動	四三
第一節		各地方に於ける革新運動	四三
第二節		革新運動と対立の傾向	四八
第三節		革新運動と結社	四九
第六章		秘密結社と軍隊	五二
第一節		軍隊一般状況	五二

	甲	總説	五二
	乙	前軍ノ状況	五二
	一	八旗兵	五三
		京旗	五三
	二	各省八旗	五四
	三	八旗ノ変廢	五五
	四	緋管	五七
	五	巡防隊	五七
	六	勇兵	五七
	七	團練兵	五七
	八	新軍ノ状況	五八
	九	新軍ノ欠點	五九
	十	秘密結社ニ対スル軍隊勢力	六〇
	十一	秘密結社ト外國人	
	十二	一般外國人	
	十三	外國宣教師ト其事業及勢力	
	十四	カソリック	
	十五	プロテスタント	
	十六	各國ノ傳道方針	
	十七	米國ノ傳道	
	十八	英國ノ傳道	
	十九	佛蘭西ノ傳道	
	二十	米國ニ教派在リテノ密議要項(五三)	
	二十一	英國ニ教派在リテノ密議要項(五三)	
	二十二	米國ニ派通商會決議要項	
	二十三	英米教會及股會社ノ決議要項	

茅三節	清國人、外國人に対する態度	六六
茅四節	排外思想、暴動	六七
茅五節	親外思想、結社	六七
茅六節	秘密結社、種別	六七
第一節	三合會、三臭會	六八
第一款	沿革	六八
第二款	目的及政策	七五
第三款	組織及會則	七六
甲	組織	七七
乙	會則	七七
一	三十六誓	七七
二	三十一則	七七
八	十禁	八三
二	十刑	八四
茅四款	人物及勢力	八四
茅五款	財政及事業	八五
茅六款	會員分布状態	八六
茅二節	哥老會	八七
茅一款	沿革	八八
茅二款	目的及政策	八九
茅三款	組織及會則	九二
甲	組織	九三
乙	會則	九三
茅四款	人物及勢力	九七
茅五款	財政及事業	一〇〇
茅六款	會員分布状態	一〇一
	外省	

前

450469

茅三節	江南革命協會	一三四
茅一欸	沿革	一〇四
茅二欸	目的及政策	一〇五
茅三欸	組織及會則	一〇九
	九省十路	一〇九
	新中國軍政署職官表	一〇六
	會規十條	一〇八
	約章五條	一一三
	人物及勢力	
	財政及事業	
	會員分布狀態	
茅四節	保皇黨	一一三
茅一欸	沿革	一一三
	外省	
茅二欸	目的及政策	一一七
茅三欸	組織及會則	一二八
茅四欸	人物及勢力	一二九
茅五欸	財政及事業	一三〇
茅六欸	黨員分布狀態	一三六
茅五節	革命黨	一三七
茅一欸	沿革	一三七
	興中會	一三七
	廣東事件	一三八
	孫逸仙卜邦人卜干係	一三〇
	惠州事件	一三五
	中國同盟會	一三七
	雲南廣西革命軍	一三八



450470

二	茅二款	目的及政策	一三九
三	茅三款	組織及党則	
四	茅四款	(暗殺党ニ就テ)	
五	茅五款	人物及勢力	
六	茅六款	財政及事業	
七	茅六節	党員分布状態	
八		其他、結社	
九		馬賊	
十		黄天教	
十一		田匪	
十二		票匪	
十三		拳匪	
十四		大刀会	
十五		小刀会	外務省
十六		白蓮教	
十七		在礼云	
十八		安靖会(安慶道友)	
十九		果獲教	
二十		在田教	
二十一		龍華會	
二十二		梁平會	
二十三		洪江會	
二十四		梓者會	
二十五		奔虎	
二十六		神拳會	
二十七		崇湖幫	

手	川尺会
主	士党
主	塩桌
主	大月頂會
主	教党
主	複付會
主	上五排及下五排
主	紅燈台
第七節	結社相互干係
第九章	秘密結社對スル現
第十章	政府政策
附錄	結論
一	秘密結社分布一覽表
二	明治甲午年中清國内変事一覽表
三	秘密結社起源一覽表
四	秘密結社入會式
甲	三合會
乙	哥老會
丙	江南革命協會
五	秘密結社創立式
六	秘密結社會員稱呼
甲	三合會
乙	哥老會
七	會員誌

外務省

450472

15

甲 三合會  
乙 哥老會  
八 三合會, 符牌  
九 哥老會, 令旗  
十 革命党, 軍旗  
十一 三合會, 造字  
十二 隱語  
甲 三合會  
乙 哥老會  
十三 茶碗陣  
甲 三合會  
乙 哥老會

外  
勢  
省

REEL No. 1-0566

0 169



ハ排滿興漢ヲ唱フルに至リ市前改者其  
 起因全ク政治外交ノ干係ニアルモ後者ノ聲口  
 經濟上ノ起因ヲ有ス即チ革命党等其  
 目的國家全体ニ及ブモ哥老會等一多クハ  
 地方的ニシテ政治上ノ勢力ハ微々タルモ、此世ノ  
 目的苛政、誅斂、餓饉等ノ場合ニ或ハ反抗シ  
 或ハ騷擾シ以テ其ノ社会ノ意思ヲ表明セントスル  
 然リ証アリ而シテ三合會ハ南清ニ哥老會ハ長江一帯ニ  
 一時ハ頭目カチ振ヒ倡振ヲ極メタルニトツルモ  
 今ヤ黨衆漸ク消シ又昔日ノ面影ヲ僅  
 下級人民ノ一部ニ其ノ勢力ヲ認メ得ルニ過キス  
 而カモ其ノ名ヲ變ジ其ノ主義ヲ失ヒ多クハ  
 無賴ノ游年ヲ集メテ賭博級外常盤ヲ行ヒ  
 以テ酒色ニ耽ルノミ。三合會ハ今尚米海外  
 ニ若テ勢力ヲ結リトモ在ルニ金錢上ノ利益ヲ先  
 トスル故ニ之ヲ折ラシ一團トナシ敢死ノ氣力  
 ヲ振フガ如キ事ハ決シテ其ノ能ハズ。哥老  
 會ノ各種ノ小結社ニ分散シテ相疎隔シテ  
 連絡ナク三合會トノ干係ハ如キモ殆モト絶セルカ平多ル  
 又哥老會中革命ヲ立志スルモノアリト雖モ  
 極メテ小部分ニシテ孫逸仙等相通スルヤ  
 否ヤモ疑ハシク其他ノ大部分ニ至リテハ迷  
 信的或ハ無賴ナル徒ノ小結合ノミ。三合會及  
 哥老會ノ苗頭目ニ或ハ僻地ニ逃レ或ハ  
 海外ニ亡奔シテ現今其ノ名女ト幸ナシ

要スルニ支那苗来、秘密結社、現今、全ク  
 崩裂シテ又收拾スルニ由ナク之ヲ論ルルノ要ナキ  
 有様ナリ  
 保皇党、利権回收、立憲政体等ヲ主張  
 スル比較的穩健ナル党派ナレドモ權ハモスルハ  
 激シテ國是ヲ誤ラシメ列國ニ反抗スルコトアリ、廣  
 東、ボイコト、如キハ其ノ一例ナリ、或程友廷  
 排外主義ナリ、保皇党、近來立憲党ト改  
 名シ國會連席ニ熱中シ、アリ將來ハ大政を兄  
 タンベシト稱セラルトモ資政院開會以來彼等ノ  
 活動少シモ見ルニ足ルベキモノナク聊カ疑ハサ  
 ルヲ得ズ  
 革命党、於テモ其ノ聲徒ラ、大ニ軍隊  
 外務省  
 及び各秘密結社ト連絡アル者ヲ廣告的、唱導  
 シ、マシモ其ノ實、貴族モ極メテ少ク、金及武  
 器ヲ欠キ、軍隊等ノ連絡亦殆ド信ス可カラズ、  
 今、革命ヲ口ニシカ直午ニ刑セラル、  
 革命党員ナリトモ、效テ之ヲ標榜セズ、  
 清國各地ニ其ノ思想無シト、云フベカラス  
 此、各秘密結社、其ノ勢大ナリト云フ能ハス  
 其ノ為、所見ルニ足ルモノナレト云、  
 現勢カ、其ノ對内及對外ノ關係、兩方面  
 ニ在テ、近世的秘密結社、根絶ヲ期ス能ハサル  
 ノミナラス、其ノ財政、經濟、風教等、莫ク見  
 苗来、秘密結社モ亦容易ニ其ノ跡ヲ絶  
 ザルベシ、思フニ其ノ國尤大世ノ民生象多

四

450476

内ニ在リテ、生存競争漸ク激烈ニ對外干渉  
 國、有機の統一ヲ期スルコト、至難ノ事ナリ  
 此、向ニ各種秘密結社、蠢動ヲ見ル亦免  
 ル能ハル處ナランカ  
 外務省

外務省

頁四

第三章 秘密結社小史

支那の歴史  
秘密結社  
450477

支那ニ於ケル秘密結社ノ起源ハ遠ク漢代ニ  
發生シ元時代ニ刻<sup>至</sup>リテハ北清一帯ニ蔓延セル  
白蓮會ヲ初メトシテ全國各地其之ヲ見サル  
無キニ至リ

紀元五年(西洋紀元)王莽漢ノ平帝ヲ弒シテ  
位ニ那<sup>以下皆之</sup>クヤ天下忽チ騷然トシテ亂レ所謂  
赤眉銅馬鐵腰綠林大槍等ノ諸賊所在

ニ起リ遂ニ秘密結社ノ萌芽トナレリ下リテ  
紀元百八十四年後漢靈帝ノ時黃巾賊起  
リ次テ劉備關羽張飛ノ三英雄ガ義ヲ桃  
園ニ結ンデ兄弟ノ盃ヲ汲ミ同年同月同日ニ生

外 務 省

レサルモ願クハ同年同月同日ニ死セント誓ヒタルハ白雲ニ  
後世秘密結社ノ範ヲ作レルモノニシテ彼ノ水滸傳  
一巻ハ八人ノ豪傑ガ相共ニ梁山泊志義堂ニ

集ヨリテ夫ヲ父トシ地ヲ母トシ星ヲ兄弟月ヲ姊妹  
トシ血ヲ吸フテ盟約セル其<sup>此</sup>凄世ナル儀式ト共ニ  
今古ニ彼等秘密結社ノ間ニ於テ襲奪スル所ト  
ナレ

史ヲ繕イテ見ルニ國將ニ械<sup>械</sup>セントスルヤ流賊先ヅ各  
處ニ蜂起シ遂ニ天下國家ヲ覆ヘスニ至ルノ事一實  
ハ北方匈奴ノ入寇ト共ニ支那歴史ヲ一貫セリ  
之ヲ表示スレバ次ノ如シ

二内割  
除ルルヲ  
可ル



年代 国朝変遷 其時代ニ起リシ秘密結社

紀元前五七 秦滅シ漢興ル 陳勝 項梁ノ乱

紀元前二七 王莽敗死シ後漢興ル 赤眉 綠林等諸賊

同 自一八四 到二二〇 後漢滅シ三国興ル 黄中 張南ノ賊

同 自三〇〇 到三三〇 晋滅シ東晋興ル 李雄 石勒 帝ヲ称ス

同 自六一六 到六一八 隋滅シ唐興ル 李密 薛舉等乱ヲ起ス

同 自八七五 到九〇七 唐滅シ後梁興ル 黄巢 賊及朱全忠(後梁太祖)ノ乱

同 自一三六八 到一三六八 元滅シ明興ル 初ノ四方ニ流賊起リ就中

紅巾 徐寿輝 郭子興 張士誠等各地ニ虎居シタルガ

朱元璋(明太祖) 遂ニ天下ヲ一統セリ

同 自一六三九 到一六六二 明滅シ清興ル 太子自成ノ乱ヲ首トシテ

流賊蜂起シテ治ムル能ハズ 世祖 燕京ニ即位シ永明

五ハ雲中ヲリ緬甸ニ逃レ 鄭成功 鄭芝龍等アリシニ

一六六二年 王莽シ明遂ニ滅ビタリ

清朝建國以來乾隆年間迄、英明ナル君主  
 止ニ在リ、萬民從テ安キヲ得タルモ、乾隆末ヨリハ  
 老處ニ土匪々回匪(回教)起リ、遂ニ各種ノ秘密  
 結社ヲ生ゼリ、就中、白蓮會、如キ、元朝時代ヨリ  
 傳ハリシモノナルガ如ク、義和團事件ヲ醸シ支那  
 數年前來ノ歴史的潮流ヲ一変セシメタルハ、世人ノ  
 記臆ニ新タル處又彼ノ長髮賊(白一八四年)カ二十  
 年周十六者ニ涉リテ、乱ヲ辱シ、清朝ノ命脉ヲシメ、  
 瓦前ノ燈火(即チ)シメタル何レモ、秘密結社ノ爆発セリ  
 結果ナリ、  
 最近時ニ到リ、泰西文明ノ輸入ト共ニ、前記ノ秘密結  
 社ト稍趣ヲ異ニセル、秘密結社即チ保皇黨、或ハ  
 革命黨ノ如キモノヲ生ゼリ、以下少ク是ヲ尋ルル者  
 秘密結社ノ説述ニ示シ、ル所見ニシ、  
 外 務 省

第三章 秘密結社起因

第一節 政治上の起因

甲 清朝建國當初、秘密結社

現朝秘密結社、起因ヲ見ルニ哥老會、三合會、  
 其他ノモノニアリテモ當初多ク、政治上ノ意味ヲ以テ  
 起ル未レ、哥老會ニ就テハ湖南曾國藩ノ率ヒ  
 タル所謂湘勇ヲ解散シ其名漸ク著クタルヲ  
 以テ或ハ全ク政治上ノ動機ヲ欠クト称スル者アレモ  
 哥老會ノ或ハ曾國藩以前ニシテ三合會ト同シク  
 一種ノ宗教的色彩ヲ帶ビタル倒滿復明ノ  
 目的トセル秘密結社ナリ倒滿復明トハ滿洲  
 朝廷ヲ覆ヘシテ明朝ヲ復興セントスルヲ云フ  
 ナリ

滿朝建國ノ初ニ當リテ此ノ種秘密結社、起  
 レルハ理當然ナリ種族ヲ異シ風習ヲ異ニセル  
 所謂胡賊即チ滿州人、脚下ニ居眠スルニ如何ニ  
 文化主義ノ漢人ト異レハ心中快トセザリシハ明ナ  
 ル事莫クシテ斯ク蜂起シタル秘密結社中現  
 今ニ到ル迄種々ナル変遷ヲ經タレ尚其ノ  
 形骸ヲ存スルモノ少カラス今日來日チテ政治的  
 目的ヲ有スルヤ否ヤハ甚ダ疑ハシト虽其ノ起因  
 ノ才一ニ實ニ上述ノ如キ倒滿復明ニアリキ

乙 塩政ト會匪

塩ハ支那歴朝ノ收入ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ  
 歴代多クハ之ヲ官營トセリ然ルニ塩法苛酷ノ  
 非難ハ明末既ニ發生シ清初世ノ販賣ヲ民間  
 ニ委託シ政府ニ其ノ製造運搬等ニ関スル行政  
 ノミヲ司リレガ塩商ト官吏ト次才ニ結托シ又  
 ハ塩商ニ對シテ誅求ヲ行ヒシ爲メ塩商ハ官  
 秩ト處ヲ民ニ負リ怨嗟ハ聲漸ク盛トナレリ  
 次々同治年間ニ及ビ塩法愈々苛酷ヲ極メシカバ  
 塩商ノ倒産スルモノ擧々トシテ起リ同時ニ私塩  
 密賣ノ風益々トナリ遂ニ所謂塩梟トシテ一大  
 秘密結社ヲ形成スルニ至レリ即チ等塩商及

外省

其使用人ト江蘇浙江ノ沿海ニ在テ製塩ニ從事  
 シ官ノ誅求ニ耐ザルモノトハ互ニ氣脈ヲ通ジ團伙  
 ヲ作り膏ニ塩ノ密賣ニ從事スルノミナシ又北ノ海州  
 方面ヨリ南ノ江浙太湖ノ附近ニ跨リ四通八達ノ  
 湖川ヲ利用シ附近諸縣ノ生糸出廻リ米穀輸  
 送ノ際掠奪擄領ヲ行ハルニ無ク屬シ巡防兵船  
 ヲ繰出スモ之等兵勇ハ元來塩法ノ結果ヨリ生セル  
 失業游民ノ徒ナレバ多クハ塩梟ト名付テ通ズルモ  
 ノニシテ塩梟ノ掃討ヲ計スル黄河ノ清ヤリ  
 爲メト同一ナリ結果ニ終リ

丙、革命的秘密結社

(一) 滿州政府ノ失敗  
 現代秘密結社の起由は、原田ハル足ラサレ成滿朝  
 失敗、如キハ、蓋シ其ノ最大ナルモ、ナルベシ之ヲ小ニ  
 シテハ、地方官吏ノ苛政アリ之ヲ大ニシテハ、列  
 強ノ外壓ニ苦シムト共ニ中央政府權威ノ失墜アリ  
 即チ地方ニ在リテハ、小ナル流氓賊的の秘密結社ヲ  
 生ジ、國家ニ對シテハ、激烈ナル革命党起レリ、左ノ之  
 其ノ結果トシテハ、過重ナル賠償金負擔ノ巨創ヲ  
 蒙リ、民力疲弊、財政多端ノ難詰ニ至レシ所在  
 民心ノ動搖ヲ來セリ、亦詭ニシテ、  
 口外交止ノ失敗  
 之ヲ其ノ外交ニ見ルニ、其ノ淋弱、王大臣等、列國情  
 勢ニ通ズ、自國得失ヲ審ニセズ、常ニ列強ノ操  
 縦ヲ受ケ、包テ其ノ體結強迫ニ遇ヒ、一切ノ利權ハ  
 之ヲ保持スル能ハズ、外壓長驅侵入ニ委レ  
 遂ニ國人ヲシテ、其ノ堵ニ安セ、又海外無救  
 支那人ニ莫モ本國ノ保護ヲ受クル能ハズ、或ハ憤慨シ  
 或ハ嗟嘆シ、内外人民相應シテ、滿朝政府ノ無能ヲ  
 罵リ、或ハ民主共和ヲ絶叫スルニ至レリ  
 ハ、内政止ノ失敗

外 務 省

之ヲ其办政ニ見ルニ世人ノ常ニ指摘スル支那官  
吏ノ貪婪能ク知ラサルノ一事ハ誓々向ハスト  
スルモ官廷ノ腐敗ト之ニ伴フ一般官界ノ情實主義  
ト人ヲシテ不平ニ不平ヲ発セシメ列強ノ陸梁ト國勢カノ  
衰頹トハ清廷ヲシテ猛烈起テテ苗衆ノ陋習ヲ破  
ラシメト吳氏改革刷新ニ伴フ財政ノ籌備故ラス  
革新愈々力ムルハ財政益々窮シテ遂ニ賦歛誅  
求ノ策ニ出テヤルベカラズ殊ニ貪官汚吏ノ此ノ向ニ  
アリテ名ヲ新政ニ假リテ其ノ日暮ヲ逞ムルアリ一  
無職ニ窮シ貧苦ニ泣クモノアルモ<sup>痛</sup>政之ガ救済ノ  
道ヲ講ゼズ國民遂ニ官ヲ見ル蛇蝎ノ如キニ至リ

(二) 革命党最初ノ激文

外務省

満洲政府ノ種々ナル失政ハ二種ノ秘密結社ヲ  
生ズリ一ハ即ケ満朝ヲ戴キテ百政ヲ刷新シ併セテ  
立憲君主立國トオサントスルモノ即ケ立憲保皇党  
起リハ根本ヲ革命ヲ行ヒ満洲政府ヲ  
排斥シテ共和政体ニ改メントスル革命党之ナリ  
試ニ革命党ガ初メテ興中會<sup>(中國同盟會)</sup>トシテ孤  
ノ士ヲ集ケケタル時中外ニ宣布セル綱領ノ一端ヲ  
記出スレバ尙リテノ如シ

中國積弱今ニ至リテ極マレトス。其ハ別ケ因循ニシテ  
目前ノ安ヲ偷シ徒ラニ粉飾虚張是レ事トシ  
下ニ別ケ蒙昧無智ニシテ國家百年ノ遠慮アル  
無し。中國ノ臺々タルヲ以テシテ對等列強ト交ル

能ハズ 衣冠ノ濟々タルヲ以テシテ尚ホ異種ノ人  
 民ニ輕視セラル。有志ノ士如何ゾ痛嘆ニ耐エシヤ。  
 夫レ既ニ西僑生民ノ象トテ其里豊饒ノ地アリ須ラク  
 発奮シテ雄ヲ天下ニ稱フベキナリ然ルニ今  
 政治修ミラス 網維墮リニ敗壞シ朝廷ハ則チ  
 賣官賣爵賣爵ヲ行ヒ賄賂ヲ公行ス官紳ハ則チ  
 民ヲ苦メテ地ヲ横領シ其ノ日暮 虎狼ニ劣ラズ  
 盜賊ハ横行シ 饑饉ニ交ヒ起リ哀聲原野  
 フル故ヒ 民生遂ニ維テ可ク嗚呼又慘ナラス  
 トセンヤ

方今強隣環列シ虎視耽々トシテ 久シク  
 中幸ノ豊土ニ垂涎シ 鑛産農産ニ論ナリ  
 凡テ利權ヲ殫竭食鯨飲ヒ 餘ス處ナラス

外務省

糟粕ノミ 豈危カラズトセンヤ  
 是レ將ニ吾人同志ノ 鼓フベキノ秋ナリ 吾人ハ大声  
 疾呼シテ亟カニ斯ノ民ヲ水火ニ救ヒ以テ大  
 厦ノ將ニ傾カントスルヲ救ヒ 願フハ我ガ子々  
 孫々ヲシテ他國種族ノ奴隸タルヲ免レシメントス  
 吾人ト志ヲ同ラスルノ士ニ来リテ協力同濟  
 セラシメシキトカ

(三) 海外ニ在留スル支那人

次ニ亦 彼等ノ此ノ如キ思想ハ 單ニ上述ノ如キ 國情ニ  
 喚発セラレシモノニ非ズ 彼等ハ 實ニ海外ニ在リテ之ヲ  
 美言スルナリ

凡ソ清國人ニシテ 海外ニ在リモハ 大別シテ二トナス



一、商人、才、學生、之、ナリ、今、其、所、謂、清、商、ナル、  
 モ、ノ、ヲ、見、ル、ニ、其、ノ、祖、先、及、子、孫、ヲ、思、フ、ノ、念、甚、シ、ト、云、凡、其、ノ、  
 國、家、社、會、ヲ、重、ニ、カ、ル、ノ、念、之、シ、ク、久、シ、ク、海、外、ニ、在、ル、  
 清、商、ハ、其、ノ、家、郷、ア、ル、ヲ、知、レ、氏、其、ノ、國、家、ア、ル、ヲ、忘、ル、  
 ニ、玉、リ、是、非、ヲ、弁、明、セ、ズ、シ、テ、革、命、其、他、ノ、思、想、ニ、感、  
 染、ス、ル、モ、ノ、カ、キ、又、或、ハ、本、國、ニ、於、テ、官、吏、ノ、横、暴、ニ、  
 耐、エ、ズ、シ、テ、海、外、ニ、出、テ、シ、モ、ハ、其、ノ、官、吏、ニ、對、ス、ル、不、平、ノ、  
 念、ヲ、直、チ、ニ、移、シ、テ、以、テ、國、家、ニ、對、ス、ル、不、平、ト、シ、テ、革、  
 命、ニ、同、情、ヲ、享、ス、ル、ニ、至、ル、コ、ト、ナ、リ、  
 海、外、ニ、在、ル、清、國、留、學、生、ハ、右、ノ、商、人、ニ、及、シ、テ、多、ク、ハ、  
 年、少、氣、銳、ノ、徒、ニ、シ、テ、商、人、ハ、自、己、的、利、益、ヲ、中、心、ト、  
 シ、本、國、ノ、興、亡、ニ、對、テ、関、セ、ズ、ト、稱、ス、ル、カ、如、キ、態、度、ナ、ク、或、ハ、  
 紅、而、非、慷、慨、者、ナ、リ、ト、非、難、ニ、ア、ラ、ン、セ、彼、等、ハ、滿、漢、ノ、互、感、  
 滿、朝、ノ、失、政、等、ニ、依、リ、憤、慨、激、昂、シ、テ、故、國、政、府、ニ、  
 及、對、シ、國、民、主、義、民、權、主、義、等、ノ、旗、幟、ヲ、樹、テ、以、テ、  
 革、命、ヲ、標、榜、ス、ル、モ、ノ、多、シ、  
 外、務、省、  
 四、政治、上、ノ、失、意、者、  
 政治、上、ノ、失、意、者、ハ、補、々、モ、ス、ト、ハ、秘密、結、社、ヲ、起、ス、ニ、  
 至、ル、ベ、シ、元、來、支、那、ニ、ア、リ、テ、ハ、學、者、則、政、治、家、ニ、シ、テ、  
 國、人、ノ、最、モ、尊、敬、ス、ル、處、ハ、毛、ノ、之、等、ノ、學、者、ナ、リ、一、般、  
 曲、臣、工、高、ニ、列、リ、テ、ハ、之、ニ、比、シ、テ、格、段、ナル、階、級、的、  
 差、異、アリ、故、ヲ、以、テ、文、筆、ヲ、以、テ、世、ニ、立、ツ、モ、ハ、再、ビ、  
 文、筆、ヲ、標、榜、ツ、ル、コ、ト、ナ、ク、寧、ロ、文、筆、以、外、ノ、職、ニ、就、ク、ラ、  
 恥、ト、ス、ベ、シ、然、レ、氏、之、等、ノ、進、者、ハ、新、政、ノ、開、始、ト、共、ニ、  
 次、才、ニ、失、意、地、也、臨、リ、其、ノ、中、財、ア、ル、モ、ハ、鄉、  
 二



入リテ世ヲ遊シ詩歌ニ其ノ餘噴ヲ漏スヘキモ衣食  
 之ヲ爲メニ窮スルモノニ至リテハ自暴自棄ノ途ニ移  
 密結社ヲ起スモノカラス殊ニ湖南地方ノ如ク  
 曾國藩以來朝野ニ人材ヲ供給シテ一時官界ノ  
 勢カヲ作リシモ後漸ク排斥セラレ袖ヲ掛ヒテ擲  
 又リシモノハ如キハ頗ル勢力アリテ一時湖南ヲシテ  
 秘密結社ノ中心ヲラシメシ如キコトアリ  
 次ニ各種留學生其他所謂新教育ヲ受ケタルモノハ  
 多クハ社會ニ雄飛スルニ似タレ氏其ノ實ニ甚ク少  
 教ノミ其ノ失意者ニ進ニテ學ヲ究ムトスルモ資テク  
 退キテ立身ノ道ヲ講スル能ハズ且下官職ナク  
 社會事業ナキ彼等ハ其ノ運命ノ薄幸ヲ  
 嘆ジ旅窓ニ雌伏シテ不遇ヲ歎キ遂ニ過激ナル  
 思想ニ捕ヘラルコトアリ

外 務 省

第二節 経済上の起因

甲 海外貿易ノ干渉

支那ノ國民經濟ノ状態ガ危險ニ地位ニ瀕スル事實ハ  
輸出入ノ相適應セザルヲ見テモ明カナリ 即チ年トシテ  
輸入超過ヲ示サレル無ク其ノ原因ハ産業ノ不振ヲ示シ  
其ノ結果ハ金銀ノ海外流出ヲ意味ス 試ミニ  
清國貿易額ヲ摘記スルニ下ル如シ

年次	輸入	輸出	輸入超過
一八八九	二〇、八八四、九五五	九六、七四七、八三二	一三、九三七、一三三
一九〇〇	二一、一〇七、四九二	一、八八九、九七五	五二、〇七三、七四〇
一九〇五	四四、七〇〇、七九一	二二、七八八、一九七	二一九、二二二、五九四
一九〇八	三九、四〇五、四七八	二七、六六〇、四三三	一一七、八四五、〇四五

外務省

即チ近來ハ毎年一億兩以上ノ輸入超過アリ之ヲ貿易  
總額ニ比スルハ六分ノ一ニ當リ 是ニ對シテ海外ニ  
於ケル支那人ノ送金莫大ナリト云ハ 海外支那人ノ多数  
ハ南洋及米大陸ニ於ケル労働者ナリ 其ノ送金ノ果シテ  
之ヲ償フテ餘リアリヤ否ヤハ大ニ疑テキ能ハズ

次ニ亦貿易ノ榮達ヲ見ルニ

年次	總貿易額
一八九九年	二〇七、八三二、七八七兩
一九〇八年	六七一、一六五、八八一兩

即チ最近二十年間ニ於テ三倍餘(三、二三割)ノ榮達アリ  
リシノミ之ヲ日本ノ同年間ニ於テ(五、九八割)ノ榮達セルニ比  
スルハ國民經濟榮達ノ状況頗ル劣レルヲ知ルニ足ルベシ  
更ニ亦其ノ經濟状態ガ如何ニ下位ニ在ルカヲ示サシニ

支那人人口四億三千三百カトシバ一人、貿易分頭額ハ僅ニ一兩半ニ過ギズ之ヲ各國ト比較スルニ尤ノ如キ割合ナリ

米國人一人ノ分頭額、二十七布一

佛國人同シ 四十四分一

佛國人同シ 四十五分一

英國人同シ 七十三分一

日本人同シ 七分一

印度人同シ 三分一

世界ニ於テ印度人ニ最モ貧窮ナリト稱セラル、ニ拘ハラス其ノ印度人一人ノ貿易分頭額ハ之ヲ支那ニ比シテ實ニ三倍ナリ以テ支那ニ於ケル生活程度ヲ知ルニ足ル可ク生活ノ困難ハ或ハ迷信ヲ起サシメ或ハ危險

外 務 省

思想ヲ起サシムルコトハ何レニ於テモ異ルコトナシ故ニ

貿易ノ不調ハ大ニ注意スベキ要アリベシ

七 産業ノ不振

近來支那人モ漸ク機械工業業其ハ大規模ノ組織ヲ以テ工業業ニ従事スルモノ出テ來リシモ其ノ経営ハ法果シテ宜シキヲ得テ外國品ヲ駆逐スルニ足ルヤ否ヤハ尙大ニ年月ヲ經カレテ明カナラサルベシ而カモ清國ハ其輸出ニ輸出稅ヲ課シ其ノ輸入ニ必要品ト裝飾品トタルトラ尙ハス一律ニ從價五分ナリ而シテ其國稅權ハ列國ニアリテ支那ニ非ズ産業業ノ保護尙モ之ニテ望ム可ラス之ニ及シテ外國ノ製造品ハ各國生産過剩ニ苦シム故ニ溢々トシテ清國ニ輸入セラルベク清國ノ製造品海外ニ

於テハ勿論國内ニ於テモ之ヲ外國品ト競争シテ耐  
 サル可ク前途ヲ思ハシ清國ノ産業ニ何時振興スベシ  
 トモ思ハルルヲ殊ニ列國ノ今日競フテ資本ヲ清國  
 投ジ既ニ方今ニ於テモ金融ハ外國銀行ノ力有スル  
 所精素ニ産業ノ資本又外人ノ支配ニ帰シ清國  
 人ノ生活ニ産業ニ蒙リ能ハサルニ至ルベク從テ清國人  
 生活ニ困窮カ向テ外人ヲ評シテ公認セラレシ奴隷ト  
 謂ハルト等シキ運命ニ墮リ處ニ至ラザルニ非テ秘密結社ヲ  
 起シ底止スル外ヲ知ラサルニ至ルベク否視ニ彼等ノ  
 秘密結社ヲ起スニ至ル目的ハ革命ニ非  
 ズシテ生活ノ方法ヲ講ゼントスルニアリ

租税ノ誅求

外務省

加拿大院ノ歳入ノ五割八分ハ関稅收入ニシテ印度ノ僅ニ  
 六分ハ関稅收入ニシ故ニ印度ノ歳入ヲ地租及塩稅ニ  
 仰ギ且フ土地全部ヲ官有トシ農民ノ政府ノ小作人タル  
 地位ニ立テしかば遂ニ其ノ誅求ニ耐エズシテ前途ノ如ク奴隷ト  
 ルニ至レリ

支那ノ租稅 地方官ハ任意ニ其高自定シ租稅ヲ  
 課シ其地ノ不正ノ報酬ヲ民ニ強ヒタルが如シ本年ノ預算  
 ニ付キ之ヲ査査スルニ 関稅收入ハ全歳入ノ三〇・九一・二九七兩  
 ノ約一割四分ニ過ギカルニ此ノ收入ハ世清事變ノ賠償金其  
 他外債ノ償還ニ充テサルベカラス 即チ残りハ八割六分ヲ  
 分ツク

官業、公債、賣官、雜收入等 三割  
 地租、塩茶稅、釐金及正雜稅 五割六分

一七  
 下  
 七  
 七

六

ニシテ賣官収入ノ如キハ全歳入ノ大約一分八厘余ニ過ギズ  
 而シテ甲ノ部ノ公債官業等ハ近來起リ来ルル収入ニシテ  
 従前ニ無カリシ故ニ歳入ノ多クハ租税ノミニ依リシヤ明カニシテ  
 人民ガ如何ニ租税ノ誅求ヲ苦シカハ言フ待タサルベシ  
 又五割六分ノ總算ニモルモ其内率

地租	一割 八分
塩茶税	一割 六分
厘金税	一割 五分
雜稅	七分

ナリ 概ニ觀之 地租塩茶ニ重ク雜稅ニ輕シ 従前ハ阿片  
 税ノ收入大ナリト善民之モ塩茶ト性質ソ同フレ要スルニ一般  
 人民ガ均シク負担セルモノナリ 厘金ニ至ルテハ清國特有ニテ  
 之ガ尤ク農民ノ高キヲ買ヒ又農産ヲ安價ニ賣出

サハルベカラズ(商人原産地ニテ非常ニ安價ニ仕入セサレバ厘金税  
 重キ故市場ニ出テテ競争ニ耐マズ) 此ノ如クニシテ農民ハ  
 直接向梅ニ地租塩茶税 厘金ヲ負担セサルベカラズ  
 此ノ過大ナル負担ハ如何ソ農民ノ収入ニ比シテ耐エ  
 ルモノナランヤ 彼等ガ一朝饑饉ニ際シテ事ヲ起シ  
 テ官ニ訴ヘ遂ニ暴虐ニ出スル又此ム事ヲサナリ

丁、  
**下交通干係**  
 近來清國ノ交通機關ハ著シク改變シツナリ例ハ  
 楊子江ニ帶ト北清地方トノ交通ノ如キ 従來大運河ノ  
 水運ニテ多ク 幾多ノ民船ト無數ノ苦力其他官吏トガ  
 運送ニ從事セルガ一度汽船ノ便用ケテテ之等ハ凡ソ  
 海運ニ依ルニトナリ 大運河ニテ北上海南下セル化使客

ハシカ汽船、原ルコトナリシテ、大運河附近ニ生活セル  
数十万乃至数百万ノ官民ハ、勿レテ生活ノ困難者  
失業ヲ求メ、治々相率サテ、或ハ塩泉ニ投ジ、或ハ哥老会  
ニ組シ、其他各種ノ秘密結社ヲ起セリ

秘密結社ノ加盟者

秘密結社ヲ取テ、各個人ニ就テ之ヲ見ルニ概シテ  
正業ニ就ク能ハルモノ及失業不平徒ナリ、即チ秘  
密結社ニ之ヲ無頼漢若クハ游民ノ集合團ニ過ヤス  
表面ニ宣言アリ、主義アリ、理想見カ如クナルニ實際ハ  
軍ニ生活ノ維持ヲ目的トスルモノナリ、其ノ中ニ朝平氏  
秘密結社ノ一般會員ハ、集會解散ヲ見ルニ朝平氏  
ヲ送り、<sup>高</sup>流成ヲ成見ト果テ不<sup>高</sup>苟々<sup>高</sup>自己ノ利得

外 務 省

ナラサル限リ決シテ力ヲ出スルナク、其ノ一旦正業ニ就クヲ  
得ニテ、再び自己ノ属セン秘密結社ヲ顧ミルコトナシ  
更ニ秘密結社ノ行動ヨリ見ルモノ、彼等ノ多クハ秘密結社  
ノ名ヲ假リテ、強迫誘奪ヲ治ニスルモノ、故ニ生活  
向題ニ結社ノ唯一目的ト云フヲ得バク、又個人ノ勤  
儉者、曾國藩、部下ノ兵士カ、哥老会ヲ組織シ、近以又  
房東人ガ海外ニ移テ行フ決シ、其ノ為メ匪徒絶エ、其ノ加盟  
者ノ心裏ヲ解剖スルニ、軍ニ生活難、為メノミト云フヲ  
得ベシ

此他秘密結社ノ起目、直接ニ天災、饑饉等ノ経済上  
ノ災厄、之ヲ導キ、火線トナシ、之ヲ機會トナシ、政治清浄上ノ  
壓迫ヲ排斥セント暴発スルモノ多シ

第三節 宗教上の起因

由來支那人、迷信的ナル事、實ニ彼等が其家庭ニ於テ神佛其他英雄真身傑天地風水等殆ド宇宙、若家人事ノ變轉ヲ能ク迷信的ニ解釈シテ祭ルノ事ニ見ルモ明カニ更ニ亦山海列ル處ニ所謂廟ナルモノヲ見ルモ之ヲ證明スルニ足ルベシ從テ之等宗教上ノ迷信ヨリ各種秘密結社、起リ來ルコトハ常事ニシテ此ノ種迷信ヲ利用シテ起ルモノモ少カラス又之等迷信ヲ以テ愚民ヲ誘ヒ一世ヲ風靡スルニ至リシモノモアリ其ノ尤モ著シキ例ハ洪秀全ガ太平天国ヲ起シタル一事ニシテ彼ハ上帝教ヲ奉ヒ直言寶號等ノ諸書ヲ刊行シ諸人ヲ誘ヒ遂ニ二十年十六行<sup>天</sup>の<sup>地</sup>渡ルハ大乱ヲナセリ三合會、哥老會等、起源ニ就キ其ノ傳説口語ヲ聞クモ亦何レモ宗教上ニ起因セリ又其ノ會中ノ儀式習慣皆宗教ト關係セサルモノナシ實ニ彼等が結社ヲ維持シ民心ヲ捕フル唯一ノ利器ニ迷信ヲ利用スルニアルナリ就中直隸山東河南其他北清一帶ニアリテ之等ニ宗教的教義ノ迷信ニ起因セル秘密結社ハ少カラズ例ニハ河南ノ團練結社、如キ又ハ北清一帶ニ蔓延セル白蓮教、如キ紅燈會、如キ又往年ノ義和團義拳匪

二〇

外 發 書

ノ如キ皆宗教上ノ迷信ヲ基礎トシテ起レリ  
 近來天津地方ニ在リ社會ナルモノアリ正心  
 修身ノ四大文字ヲ教義トシ煙草ヲ  
 吸ハズ酒ヲ飲マズ戒律ヲ守ルノ堅キニト  
 他ノ秘密結社トハ稍々趣ヲ異ニスレバ一種ノ  
 秘密結社タルヤ疑ナシ  
 果  
 其他東三省ノ黃天教河南ノ累獲教在  
 圓教稱心會安徽ノ掉告會神拳會  
 四川ノ教党大冒頂會等ハ何レモ直接ニ  
 宗教上ノ起因ヲ求ムルヲ得ベシ  
 宗教上ノ起因中基督教ハ如何ト云フニ  
 當社ニ基督教ニ又對シテ所謂扶清滅洋  
 標榜シ教會ヲ破壊シ宣教師ヲ殺戮シ彼  
 外務省  
 教案ナシモノヲ生ゼシガ之ニ交シテ洪秀全ノ如ク  
 基督教ヲ利用セルモノアリ又近來ニ基督教  
 ノ自由平等主義ヲ奉シ其極端ニ至ルモノハ  
 過激ナル思想ヲ惹起スルコトヤシトモ孫次仙  
 ノ如キハ其過激ナル思想ト鞏固ナル意志トハ  
 一面ニ存テ基督教ヲ信ズルノ故ト云フモノナリ  
 然レモ基督教ノ傳播セル結果清國ハ自由  
 平等ノ精神ヲ充滿セルヤ否ヤハ甚ク歎ハシク  
 小僧教徒ガ相團結シテ秘密結社ヲ起スコトハ  
 未ダ容易ナラサルベシト信ス



第四節 人種上の起因

蒙古人、西藏人及辺境諸蠻ニ付テ、此處ニ論述スルノ要ナルベク、苗族、瑶族、素ヲ漢人ト相容レシメ、即チ種族的闘争、融エズ迄来、又之ニ交シテ、支那内地ヲ遊ヒレハ漢人、秘密結社ト相通シテ流氓ノ群ニ格スルモノ無キニシテ、非ハ氏特ニ之ヲ論スルニ足ラサルハ、茲ニ去トシテ滿漢軋轢ニ就テ其、起因ヲ究メン

一、又清復明

清朝建国當時、滿漢異種ノ念深ク漢人ノ腦裏ニアリテ種々ナル種秘密結社起リ、又清復明ヲ標榜セリ

ニ、滿漢雜制

外務省

漢人ノ性情、然ラレハ所ト云ハ滿朝歴代ノ政策亦能ク漢人思想ノ長短ヲ利道守シ或ハ股文ヲ以テ先之即チ前或、通史、會律、大著述ヲ以テ漢人ノ論辨ヲ教ラシメ、滿漢箱制ノ策ヲ取テ漢人ヲ採用シ漢人ノ進ニ龍結サレ終リ數百年來率々其ノ勒制ヲ受テ其ノ頭髪ヲ辨シ、其裏衣冠ヲ表シ祖宗ノ仇敵ニ媚仕シ以テ今日ニ至レリ然ルニ今ヤ内憂外患交ニ起リ滿朝政府ノ威信地ニ落ワルト共ニ漢人ハ滿人ニ對シテ然輕侮嫌惡ノ言動ヲ発露シ率リ往昔屈辱折壓ノ反動トシテ排滿、排漢ノ思想、種々ナル秘密結社ヲ起セリ

三、漢人ノ不平

之ヲ漢人ノ言ニ徴スルニ排滿ノ氣焰頗ル盛ニシテ民ノ朝廷ヲ嫌惡スル最モ甚シク世ノ不平トスル事莫クハ此

三三

如し

一、滿人の胡夷賤族ナリ之ヲ君主ト仰テ能ハス

二、滿朝ノ祖宗ノ仇敵ナリ即チ滿人ハ漢人ヲ征服シテ明

朝ヲ倒シタルモナリ

三、清國ノ政治ハ漢人ニ倚リ所多キニ拘ルニ漢人ノ位ハ極ニ

低ク曾國藩ノ如キヲ以テシテ僅ニ侯ニ封セラレシニ過ギズ

不公平ナリ

四、漢人ニシテ大官ニ列スルモノハ中ノ女シノ假疵ヲ以テシテ

直チニ彈劾シテ其ノ位ヲ剝奪セラル

五、要所ニハ種ヲ懸シ漢人ヲ用ルニ慮然テ官吏ノ盜賊ニ

臨ケカカク而カモ其ノ費用ハ漢人ノ負担スルナリ

六、租税ノ誅求ハ其ノ甚テ暴動匪徒亂ルニ由ルナリ

七、滿朝ノ漢人ニ對スル苛虐ハ欺騙ヲ事トシ建國以來未ダ

外省

曾ラ民生ニ利益アル事業ヲ起シタルコトナシ

八、滿朝ノ能ハルナリハ程ノ陸路ヲ事ス

九、天災饑饉トシテ起ルニ天作既ニ滿朝ヲ離シタルナリ

以上ノ不平ハ最近ニ於テ曾國藩ハ漢人ヲ率キ漢人ノ

長髮賊ヲ討平シタルヲ後人遂ニ異種仇敵ノ念ヲ

起スニ至レルナリ又其ノ念ヲ強メスル所以ノモノハ革命党

ノ鼓吹トシテ意運動ノ結果ナリ

第五節 思想上の起因

支那の先舜三代の文物制度ノ盛ナル間ニ凡百ノ  
 政治上及經濟上ノ根本初メリ而シテ三代ノ主義ハ  
 共和主義タルノミナラス又民主々義アリ又頗ル  
 自由主義ナリキ是レ大ニ注意スベキ矣ニシテ漢  
 人ノ其発展ニ際シテ敢テ武力ヲ用ヒズ人王リ  
 殖民的政策ヲ取り而シテ四圍ノ人民ヲ同化  
 セントシテ總テ共和自由民主等ノ主義ニ伴ハル  
 下カサルニ到リ是レ實ニ漢人種ノ根本思想  
 ナリ今是レ民主々義ニ就テセシク述ビンニ  
 一民主々義発動ノ一端ニ主權者ヲ決定シ之ヲ  
 監督スルニ於テ存ス

外務省

此ノ兵ニ平ニテハ支那ノ民主々義ハ古未大ナル  
 勢力ヲ発揮セリ。支那人ガ至治ノ極則トセル唐  
 虞ノ代ノ如キ殊ニ然リトス。當時外界ノ事業ハ  
 彼等ヲシテ直接民主政治ヲ行フ事能ハレ  
 ザラシメタルモ而カモ當時ノ君主ハ四岳ノ撰  
 舉ニヨリ群牧ノ各部ノ代表者四岳ノ群牧ノ  
 撰舉ニヨリ群牧ノ各部ノ代表者タリ而シテ  
 國ノ大事ハ君主一々四岳ニ諮テ之ヲ行ヒシラ  
 見ルニ民主々義ノ含蓄ヤ淺カラズト謂フベシ  
 況ヤ君主ノ選舉亦衆ノ門閥勢力ニ拘ハラズ  
 苟タモ聰明才德能ク民望ヲ繫テ天功ヲ享テ  
 ルニ足ルモノアルハ直ニ之ヲ山澤賦歛ノ間ニ拔擢  
 セシニ於テヤ。禹其ノ經世安民ノ大功ニ依リ中

史集權ノ基ヲ開キ有徳相半ク禪讓ノ法  
 ヲ変ジテ血統エヨル相續ヲ行フヤ従前ノ民主  
 的方途破壊セラレシガ如キ觀アルモ其精神ヤ  
 爲ニ立モ蹂躪セラル、無ク主權者ニ對スル  
 嚴然タル監督權ハ諸侯ノ手ニテ諸侯ハ人  
 民ノ代表者ナリ苟クモ君主世ノ徳ヲ失ニテ民重シ  
 トナシ、義ヲ滅却スルヤ諸侯直ニ起テ倡テ爲シ  
 百姓ノ爲ニ放伐ノ舉ヲ行フ。秦封建ヲ廢スルヤ  
 従来諸侯ガ有セシ監督權ハ移テ人民ノ手ニ帰  
 セリ故ニ秦其ノ政ヲ失フヤ黔首ノ雄傑ナルモ、  
 市井山野ニ逢蠅起シテ以テ主權者ノ罪ヲ向  
 ヘリ曰ク「王侯將相奚ゾ種アラシヤ」曰ク「彼取テ  
 代ルベシ」ト此豈率直ナル民主的精神ノ発表  
 外 務 省  
 非ズヤ支那ニ於ケル秘密傳社ノ起源ニ實ニ  
 此ノ時ニ在リシト前章治萍ノ部ニ述ベタル  
 故ニ支那人ハ天子民ノ爲ニ存スルノ義ヲ知り  
 天子其ノ義ヲ失スルヤ自カラ之ガ制裁ヲ加フルノ  
 權アルヲ知シ、而カモ唯是ノミ其ノ政治的知  
 識ト理想ノ未開トハ徒ニ之ヲ以テ彼ニ易ニスルノ  
 方便ヲ知テ此ヲ以テ彼ニ優ル開明的政策ヲ立  
 テシムル事能ハズ此ノ實ニ闕シテ支那ノ民主  
 主義ハ動ニ牆壁ニ撞突シ停歩シテ而シテ及覆  
 セリ。支那人民ノ民主的発動ハ偶々以テ野  
 心家ノ利用ニ資スルニ足ルノミ惜ム所ノ理想  
 ノ闕也ナリ其結果ガ國家ヲ導ク一段  
 理想的完全ノ域ニ進ミシムル能ハザリシハ即チ

彼ノ歴代ノ主權者ガ完美ナル統一ノ組織ヲ  
 望ミテ得ザリシト正ニ同一轡ニ帰スルモノナリ  
 二 民主主義発動ノ一端ハ其ノ自治制ニ於テ  
 存ス

自治ノ制ハ支那ニ於テ止セヨリ尠達ヲ見タル  
 所ノモノニシテ淵源頗ル古ク周ニ在テ鄰里  
 郷党ノ制トナリ漢ニ在テ亭長郷老ノ制ト  
 ナリ隋唐ニ至テ此等ノ地方團體ノ事業トシテ  
 社會主義倉ノ設備ヲ加ヘ明ニ至テ大ニ充達シテ  
 里甲ノ制トナリ 郷約亭ノ里社壇 社會社  
 學ノ設ケアリ凡ソ許証祭祀教育救恤ノ事  
 悉ク此ノ地方團體ノ管掌スル所トナリ以テ現朝  
 保甲ノ規模ヲ定ムルニ至リリトホーソン曰ク

外務省

政世界ニ在テ政府ノ干渉ヲ蒙ラサル支那人民  
 ノ如キハ稀ナリト 或ハ頻繁ナル易姓革命  
 ノ問題 國家動乱ノ外ニ立テ或ハ不完全ナル  
 行政ノ下ニ於テ支那ノ社會ガ超然トシテ能ク其  
 ノ生命繁榮ヲ今日ニ維持スル所以ノモノ職ト  
 シテ是ニ由ラズンバ非ズ 故ニ支那ノ民主主義  
 ハ進取の爲ニ大ニ爲ス所ナカリシモ退守的ニ著  
 シキ或切ヲ收メタルモノト謂ハサルベカラズ

三 民主主義發動ノ一端ハ其參政權ニ於テ  
 存ス

郷党ノ制廢シテ後代テ科擧ノ制アリ 民ノ階  
 級ニ論ナク苟モ學子アルモノ則チ擧擧ニ應ジテ以テ  
 官ニ就キ政ニ參スルコトヲ得 法タル至公ナリ

弊、主權者オ此ノ至公ノ法ヲ執テ以テ朝家の  
 政策ニ利用セントスルニテリ。世子ア所用フル所ニ  
 非ズ而カモ朝廷ニ是ヲ以テ人ヲ取り世子者ニ是  
 ヲ以テ功名立身ノ階梯トナヌ。上下相利シテ而  
 シテ之ガ弊、及ブ所ヲ察セズ清初ノ謀臣洪  
 經畧ト謂ク曰ク「考試文章本係牢籠、使  
 高士爲之、自是不屑」ト。民主々義発動ノ一端  
 ハ巧ニ主權者ニ利用セラレ支那人民、文世子ヲ尊  
 重シ功名ニ熱中スル性情、偶々以テ主權者ノ利己  
 的政策ヲ助クル所以トナレリ  
 依是觀之歴代變遷ノ間、在テ支那人ノ民主  
 ヲ義ニ纏カニ勢力ヲ其ノ自治ノ制ニ持シ健全  
 ナル迄達ラ其以外ニ逐クルコト能ハズ尙然タル  
 止吉ノ民主思想ハ長ク此ノ如ク專制ノ威力  
 ニ伏シ樹影屈伸滞シ以テ今日ニ至レルモ支那  
 現今ノ歴史上ノ地位ハ及シテ專制ノ下ニ折壓  
 セラレタル民主主義ガ外來ノ刺戟ニ依リテ  
 勃興シ復活シ一轉シテ國民主義トナリ以テ  
 世界歴史ニ同伴セントスル時機ニシテ恰々支那  
 公初戦後ノ歐洲大陸諸國ト其形勢ヲ同フスルモ  
 多クノ從ラ果シテ國民主義トナリ轉シテ帝國主義  
 トナルヲ料タ又滿漢離轉ノ爲メ幾百年間其ノ  
 專政ニ憤シテ漢人種ガ過激ニ政權ヲ握ラントスル  
 ノ際ハ或ハ極端ナル民主主義又ハ破壞主義ヲ  
 経ルニ至ルヤ元計ルベカニ殊ニ刻下ノ立憲問  
 題ノ如キ大ニ注意スベキモノナルベシ

外 務 省

彼等ノ民主思想ハ近來國會速開運動ヲ  
 初メトシテ名者諸議ヲ其他各種ノ方面ニ花動シ  
 来リタルガ此等ハ別トシテ從來ヨリ此ノ種思想ガ  
 彼等ヲシテ秘密結社ヲ起サシモ根本的要素  
 素タリシハ疑フヘカラサルナリ 即チ之ヲ大ニシテハ  
 革命的ノ革命論ヲ生シ之ヲ小ニシテハ彼取テハ  
 べト云ヘルガ如キ地方的秘密結社ヲ起セリ殊ニ  
 現今ニ於テハ南清一帯及海外ニ於ケル支那人  
 内ニ激烈ナル自由平等主義流布シ從テ南清  
 及シ海外ニ革命党其他清朝ニ反對ナル秘密  
 結社多シ

外務省

第六節 民風上ノ起因  
甲 湖南省

古来湖南ノ人民ハ保守祖迷ニシテ排外ノ氣風  
強烈ニシテ僅ニ十余年前ニ於テモ勇敢ナル外國  
宣教師サハ敢テ足ヲ洞庭湖畔ニ入ルヲ得サリキ  
當時彼等ハ排外ヲ唱ヘタルハ自負尊大ノ舊思想  
ニ基キ世界ノ大勢ニ通セサルヨリ生シタル誤解  
外ヲラスシテ今日ノ所謂排外思想トハ較其ノ趣ヲ  
異ニシタリ支那ノ苗記ニ湖南士風古ニシテ世利  
ニ淡ク慷慨節ヲ尊ビ不義ヲ見ルニト蛇蝎ノ如ク  
君子者ニ禮ヲ勤ノ農家ハ其業ヲ勉ムト曰ヘルガ  
如ク其民風ハ他者ニ比シテ見ルベキ莫少カラリシガ

外務省

咸豐同治ノ頃曾國藩以下幾多ノ人材輩出  
シ將ニ刷レントセル滿洲政府ヲ援ケテ髮賊ヲ  
平ゲ中興ノ偉業ヲ完フセルヨリ爾来要路ノ  
大官多クハ湖南人ヲ以テシ近年ニ至ル迄湖  
南紳士ハ言動ハ北京政府ノ大ニ憚ル外トナレリ  
日清戦後清國上下ノ腐敗外ニ暴露セラレ庶政  
革新ハ國民ノ輿論トナルヤ陳宝箴梁啟超  
譚嗣同能弁齡唐才常其外ニ新進氣鋭ノ  
秀才ハ皆湖南ニテリ政治上教育上熱心ニ革新  
ヲ唱ヘ誘導ニ勉メ遂ニ湖南人民ヲ以テ長夜ノ  
迷夢ヨリ覺醒セシメ翻然トシテ旧來ノ態度ヲ  
一変シ青年子弟ハ滔々トシテ新學ノ内ニ集リ  
上下民心翕然トシテ新政刷新ニ向ヘテ偶ニ陳



三〇

宣統以下、名士は成ノ政変ニ連坐シテ悉ク其ノ  
 職ヲ失ヒ陸々多ク此ノ氣運ニ一頓挫ヲ未セリ  
 然ルモ此等幾多憂國ノ烈士カ心血ヲ注イテ培養  
 シタル革新ノ種子ハ一陣ノ旋風ニ因テ枯死根  
 絶スルモノニ非ズ此ノ政変ニ次テ起リシ及動政策ハ  
 大ク人心ヲ沸騰シ庶改革新ハ現政府ノ業ニ  
 非ズ積衰極微ノ滿洲朝廷ニ賴ツテ変法  
 自強ヲ謀ルハ頻死ノ病者ヲ鞭撻シテ重キヲ  
 荷ツテ遠ク行カシムルヨリモ難シ次ニヤ愛親  
 覺羅ノ族ハ吾人祖先ノ仇讎ニシテ黃帝  
 子孫ノ公敵ナリ何ノ義務有テ之ニ臣事シ  
 之ヲ扶持シ吾人漢民族タルモノハ宜シク現政府  
 ヲ顛覆シテ祖先ノ仇怨ヲ報ヒ政權ヲ國權  
 自強ニシテ奪回シテ然ル後變法始メテ謀ルベク  
 自強始メテ期スベシ回億ノ生靈ヲ塗炭ヨリ  
 救ヒ宇内萬邦ノ福祉ヲ暢達スルハ夫レ只民族ノ  
 独立ニマレカ變法自強ハ未ナリ革命自立ハ本  
 ナリトノ思想漸ク志士ノ間ニ流布シ革命ノ  
 暗流次第ニ其大ヲ加フルニ至レリ即チ先ハ湖  
 南出身ノ留學生（各省中其ノ數最モ多シ）ハ忽チニ熱心ナル政  
 治狂ト化シ革命ノ急先鋒ヲ以テ自ラ任ジ  
 或者ハ海外ニテ新聞雜誌等ニ祖国ノ危急ヲ  
 絶叫シ漢族ノ情眼ヲ警醒シ或抑者ハ去リテ  
 御里ニ帰リ世ニ會テ研究会等ヲ設テ政治教  
 育ノ機關ニテ其ノ政ニ民族の革命主義ヲ  
 唱導シ湖南ノ青年、讀書人ハ長沙ヲ中心

外務省

三

450503

トシテ全者ニ之ヲ喧傳シ終ニ湖南ハ廣東ト並ビテ内外注目ノ燒ト矣トヨリ勢多有力ナル革命党員ヲ出スニ至シリ

外務省

REEL No. 1-0566

0200

乙、廣東省

廣東、古、所謂百越南蠻之地ニシテ其ノ民、今ニ至ルモ慄悍ナリ然レモ彼等ハ誠実ヲ欠ケリ湖南ノ民ハ只働クアルヲ知レモ利ヲ見ルニト極メテ鈍ナルニ及シ廣東人ハ利ヲ規フニト頗ル敏捷ニシテ利ヲ為スニ如シタル勞働ヲモナスノ民ナリ湖南人ハ義ノ為メニ死ヲ辭セサルコトアリ廣東人ハ利ノ為メニ命ヲ顧ミズ蓋シ廣東人ハ天性商業ニ通才ヲ有スルニヤ彼等ハ數世紀以前より海外ニ移住シ通商ヲ營ミワリ殊ニ南洋及南亞細亞諸地方ガ欧米各國ノ領トナリ汽船ノ交通開クニ及ビテハ其種族移住ノ力ハ各地主人ノ繁殖力

外務省

以上ニシテ列ル處ハ本國<sup>本省</sup>人種ヲ人種的<sup>的</sup>に驅逐シワリ彼等謂テク專制ニシテ暴政ナル支那本國ニアルヨリハ海外自由ノ新天地ニ生活スル方生命財產ニ安全ナリト而シテ彼等支那人中ニ海外各地ニ生シテ其地ニ死スルモノ少カラズ新嘉坡附近ニハ馬來語ヲ知ルモ自國語ヲ知ラサル支那人多シ然レモ彼等ハ他省ノ支那人ト全ク異リ常ニ進取ノ氣深淵タルモノナリ同時ニ風氣殺伐ナリ秘密結社ニ甚ダ盛ナリ長髮賊ヲ起シタル洪秀全保皇党首領康有為革命党首領孫逸仙ボイト首唱者陳董等皆廣東人ナリ滿洲ニ海賊アルガ如ク廣東地方海賊絶エズ彼等ハ清國政府ヲ見ル路頭ノ

人ヲ見ルト一般ナリ然ルニ其ノ郷里其國ニ  
 對スル觀念ハ熱烈ヲ極ムルモノアリ日清戰  
 争ヲ冷淡ニ看過シ西太后崩御ヲ際シテモ  
 花柳街ニ絃声湧キ歡呼滿ケタル有様ナリシ  
 彼等ハ辰九事件アルヤ「愛國」ニ字ヲ商標ト  
 セル商品ニ僻取地ニモ歡迎セラレ鴉片禁止ノ  
 事アリヤ中興ナル辨寸ハ燎火ノ勢ヲ以テ敗路拓  
 大セリ之レ近來ノ流行熱ト云ヘ此ノ如キハ實ニ  
 廣東人ノ特性ニシテ廣東ハ古來ヨリ外國ニ通  
 清國中智識最モ勝レル地方ニモ拘ラス外國勢  
 カヲ排斥スルヲ懸ク同清<sup>又時</sup>清朝ノ威力ヲ輕シ  
 不レモトモ甚レク此等ノ民風ハ他<sup>亦</sup>於テ種々ナル  
 秘密結社ヲ起サシムルニ至レリ

外 務 省

次ニ又廣東省内ニ本地。福老。若家等ノ  
 各種族混雜シテ住居シ何レモ特種ノ地位ト特  
 種ノ性質ヲ有シ互ニ相争ヒツアリ之等ハ此ノ地方  
 ニ會匪多キ一因ナリ

丙 楊子江流域

楊子江流域中特ニ説明スベキハ尤、三トス

一 淮南気質 楊子江以南即江蘇浙江等

二 淮北気質 楊子江以北即江蘇江北地方

三 安徽民風 安徽省

一 淮南気質

所謂江南ノ地ニシテ土地最モ豊饒ニ絹、綿、塩

等、天産了リ民風古味軽浮ニシテ淫靡ナルニト

稱シ俗語ニ楊少脚(楊少脚ハ江北ニ美人ノ産地ニシテ

脚ハ纏足ノ美シキヲ謂フ)従来此地ハ淮南気質中ノ入ル、

所ナリ)々蘇州頭(蘇州美人ノ頭髪、美ナルヲ云フ)主ト

シテ其結髪ニ就テ云フナリ)ノ語アルヲ以テ之ヲ知ルニ足

外 務 省

ルベシ即チ昔時ハ四百餘州人文、中心ナリシモ今日ハ

民日ニ怯弱ニ士日ニ文弱ニ流レ民家ノ婦人、如キ

滔々トシテ醜業ノ爲メニ(或ハ)集リツツアリ従テ無頼

漢多ク各種ノ會匪ヲ起シ又上流富貴家ノ子弟ハ

洋ノ東西ニ留學スルモノアリト美モ多クハ意志薄弱

弱ニシテ墮落ノ淵ニ陥リ婦人革命的結社ニ加入

スルモノ瀾々トシテ絶ニサル有様ナリ

二 淮北気質

楊子江以北ノ江蘇省ハ廣漠ナル畑地、多ク江南ノ如ク

土質膏腴ナラズトモ同時ニ民智開キル爲メ今尚

強悍凡ヲ爲セリ江北人一般ニ身長高ク且ツ

頑健ニシテ江南ニ富貴家多キモ江北ハ財少ク

江南人ニ膽小ナレモ江北人ニ膽大ナリ又江北人ハ

三四

直截ヲ尚フモ江南人ハ円轉ナリ。兇暴ガ江北人ノ特色ナルニ江南人ハ凶瓜ヲ長クシ事ヲ厭ヒ勤モス。ト云ハハ今尚ホ十中九迄ニ必ズズ淮北人ニ限ルト云ハルモ民風ノ荒キ一証ナリ。

尚地勢上江淮幾百カ担ノ糶米ハ大運河ニヨリ此ノ地ヲ通過シテ北京ニ運バレシ爲メ之ガ仲次ヲナスヘキ位置ニ立テタル彼等ハ勢ト山東トノ往來ヲ繁クシ性来ノ勁悍ニ加フルニ拳匪等ノ邪教ヲ以テスルニ至リ殊ニ山東ノ山岳地方ニ慄悍死ヲ恐レズ爲事漢人ト其趣ヲ異スル往古ノ善人善人ヲモ有シ陰然一敵國ノ感アルモノケレバ彼等ニ其ノ感化ヲ世ナリ近世運河ノ通行廢止セラレ生活貧困ヲ許フ

外務省

ルヤ御 兇相約シテ會匪的 秘密結社ヲ 形成スルニ至リ

三 安徽民風

安徽人ノ性質ハ之ヲ分テ淮水北岸(鳳陽府 潁州府 泗州府 一帶) 皖北(阜慶府 六安州 滁州 和州 一帶) 皖南(徽州府 池州府 太平府 廣德州 一帶)ノ三トナスベク皖北人ハ概シテ輕躁ノ風アルト共ニ勞セテ賦ヲ獲ントスルモノ多ク也等ハ楊子江ノ沿岸ニテ上下ノ船舶絶エズ各要地ニ寄港スルヨリ自然此ノ如キ傾向ヲ生セシメン所以ナルハシ 皖南人ハ比較的進取ノ氣騰象アリ 各省及外國ニ出稼シテ商賈トナルモノ多ク皖北人ハ妙ク怠惰ナラス一般ニ勞シテ食ヲ求メントスルモノ多シ然レ民性質多ク輕躁ヲ免ハズ 往々土匪ノ爆発ヲ

見受クルコトアリ

淮水北岸の歴史止身ヲ微賦ヲ起シ聲天動地  
 事業ヲ為セシ人物ヲ出シタル区域ニシテ人民自ラ  
 王侯將相豈種アラシヤト云ルガ如キ思想ヲ有シ  
 天分ノヤルシク也ニ異リテ象ニ長名材幹アルモノハ  
 知ラス識ラズノ内一攫千金ヲ目的トスルカ又ハ  
 古ノ真家傑ヲ模疑スルモノ多ク或ハ賭博ニ耽リ  
 或ハ酒色ニ溺レ遂ニ罪匪流賊ニ至ルモノ少カラス  
 殊ニ此ノ地方ニ輝河淮水ヲ初メトシ湖川頗ル多ク  
 水道縱横出沒ニ便ナルヲ以テ淮北ノ感化ヲ受ケテ  
 秘密結社ヲ起スト頗ル盛ナリ

外務省